

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年7月23日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874000219		
法人名	社会福祉法人 青洲会		
事業所名	グループホーム どんぐり荘	ユニット名	どんちゃん家
所在地	〒300-2303 茨城県つくばみらい市狸穴1072-46		
自己評価作成日	平成26年12月27日	評価結果 市町村受理日	平成27年8月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0874000219-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0874000219-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年2月26日	評価確定 決 済 日	平成27年7月23日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>認知症になっても社会の一員として暮らしていける環境づくりを目指して、様々な取り組みを行っています。併設の認知症型通所介護事業所との連帯を図り、グループホームの入所者の生活支援へ活用していく取り組みも行っていきます。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は幹線道路から車で3分程入った場所に立地し、周りは閑静な住宅地となっている。敷地内の中庭を中心として、周りを囲むように同一法人の通所介護事業所と小規模多機能型居宅介護事業所があり、それぞれがテラスでつながっていることから、利用者は他事業所と自由に交流することができ、一部の利用者は毎日他事業所の友人と過ごしている。</p> <p>管理者は職員の介護技術の向上や能力を引き出せるよう年2回の人事考課を行っており、職員はそれぞれ目標を持って利用者の支援にあたっている。</p> <p>管理者は厚生委員会や防災委員会、症例研修委員会など、各種委員会を設置してそれぞれに担当職員を配置し、利用者が暮らし易い事業所となるよう内部研修を取り入れながら職員がつくりあげて行く体制づくりをしている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員がBS法やKJ法を用いて理念づくりを行った。玄関へ掲示し、家族や来訪者にも目を通していただけるようにしている。職員は名札の裏に理念を挟み込み、いつでも確認できるように工夫し、意識付けや共有をしている。	法人の理念と地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げ、職員が出勤時に確認できるよう、玄関に掲示している。 事業所の理念は、管理者と職員がブレインストーミング法やKJ法を用いてユニット毎に作成している。 管理者と職員は名札の裏に理念を入れ、常時確認しながら実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と家族の理解を得ながら、近隣の美容室、理容店を利用したり、自治会の行事へ参加を通して地域の人々とつながりを持てるよう支援している。隣接する保育所の行事や散歩を通して園児との交流も行っている。また、頻度は少ないが、独自に近隣のゴミ拾いや散歩を挨拶運動を兼ねて実施している。	事業所では「挨拶運動」の一環として、利用者や職員が散歩時に空き缶やゴミ拾いをしているほか、自治会から餅つきや流し素麺のお誘いがあったり、近隣保育園の運動会の見学、保育園児来訪によるお遊戯の披露など、地域住民と交流している。 事業所は隣接する通所介護事業所や小規模多機能型居宅介護事業所と合同で夏祭りを開催し、家族等や近隣住民を招待して御神輿の催しのほか、焼きそばやかき氷などを有償で提供し、地域住民と交流できるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護者教室を月に一度開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度を目安に運営推進会議を開催し、ホームでの取り組みを資料、広報誌等を用いて報告している。参加者から意見や助言をいただき、アンケートの記入もお願いしている。会議で出た意見を現場に伝達し、改善や新しい取り組みに繋げるようにしている。	運営推進会議は、隣接する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告を行うとともに、課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 委員から「利用者の下肢筋力低下に伴い、転倒事故のリスクが高くなるが、利用者の行動制限をしない支援や対応をして欲しい」などの意見を受け、定例会議で話し合って支援方法を検討するなど、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者が出席して下さり、活動状況やケアサービスの取組みを伝えている。また、電話での情報交換を行っている。市内のグループホームで連絡会を発足し、市の担当者にも参加をお願いしたり、認知症サポーター養成等でも市と連携をとっている。	管理者は年2回開催される市内のグループホーム連絡会や運営推進会議で、市担当者に事業所の空き情報や取組みを報告するとともに、電話で事故報告や介護方法の疑問点及び問題点を相談し、市担当者からは助言を得ている。 管理者は認知症サポーター養成講座の講師を務めているほか、職員数名が市のキャラバンメイトに登録しているなど、日頃から市と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人事業所内にて、権利擁護や高齢者の尊厳についての研修等にて、職員の学びの機会があり、法人の方針に基づき、全体で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。夜間は防犯のため、玄関の施錠を行っているが、日中は玄関、中庭を開放し自由に外に出られるようになっている。	身体拘束や行動制限を行わないことを契約書に明記するとともに、職員は月1回の定例会議で身体拘束の状態になっていないかを確認し、玄関の施錠を含めた身体拘束をしないケアに努めている。 管理者は身体拘束排除に向けたマニュアルを作成し、身体拘束をしないケアを実践している。 職員の勤務年数に応じて身体拘束防止研修を法人全体で行っており、研修受講職員は申し送り時や月1回の定例会議で研修内容を報告し、全職員で共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会や外部の研修を通して、知識の習得に努めている。入浴時や排泄介助時の身体状況の確認も含め、虐待が見過ごされることの無いよう、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修会に職員が参加し、定期的に知識を深めている。現在は活用する機会は多くないが、必要時に適切な支援ができるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は書面を用いて説明を行い、入所者やご家族の不安や疑問点を解消できるように努めている。入院時や退所時に関しても、安心して頂けるよう十分な説明を行い了承を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスや面会時、運営推進会議で意見や質問、要望を頂けるようにしている。外部機関については、重要事項説明書への記載、契約時に説明も行っている。玄関へ掲示もしている。	管理者や職員は、利用者との日々の会話から意見や要望を聴いているほか、家族等からは来訪時や電話連絡時、運営推進会議出席後にアンケートなどで意見や要望を聴くよう努めている。 家族等から「利用者への来訪客は家族等が許可した人だけにして欲しい」や「面会許可書を発行してはどうか」などの提案があり、管理者は事前に家族等に面会許可書を発行するとともに、突然の来訪者には家族等に電話で確認をするほか、利用者毎に「面会来訪者名簿ファイル」を作成した。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員で年2回の定期面接を実施。又、月に一度の定例会議でも職員の意見を聞く機会として活用している。一人ひとりの意見に耳を傾け、ケアの質の向上に生かすように取り組んでいる。	管理者は年2回職員との個人面談や、月1回の定例会議で職員の意見等を聞く機会を設けているほか、休憩時間にコミュニケーションを図り、日頃から何でも言い合える関係づくりに努めている。 職員から「職員が利用者と一緒に食事をしている時間は、利用者の食事介助を行っていることから、休憩時間には入れないで欲しい」や「居間兼食堂の乾燥防止に加湿器を購入して欲しい」などの提案があり、交代で休憩時間をとる仕組みを導入するとともに、加湿器を購入するなど職員の提案や意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の定期面接を活用している。介護課業表を活用しながら、話し合いのうで目標を設定し、目標達成に向けてのアドバイス、取組後の評価を実施している。目標を持ち、チャレンジすること、又、達成感を味わうことで、意欲、やりがい、向上心につなげるようにしている。その際、悩み、人間関係、職場環境等についても聴いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間のスケジュールをたて、勉強会を実施している。同様の内容を2回に分け、勤務やそれぞれの都合に合わせて参加しやすいように設定している。外部に講師の依頼をするケースもあるが、職員が講師を担当する仕組みになっており、教える立場から、より深い知識を習得するきっかけになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加している。サービスの質の向上、平準化、協力体制の構築を目的に、月1回程度の会合、事例検討会、症例発表等を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にそれまでの暮らしや嗜好等、出来る限りの情報を収集、要望も聞き、本人の望む暮らしをホームでも続けていける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込み時から積極的に職員から話しかけ、信頼関係が築けるように働きかける。管理者や担当職員が中心となり、家族の意見や要望を受け止め、検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階で、職員で話し合い、十分な検討をした上で決定している。場合によっては、併設のサービスや居宅介護支援事業所に相談している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前の情報を元に支援を行い、可能なことは依頼し、役割を持っていただく。生活していく中で、入居者様から学ぶことも多く、互いに支え合う関係を意識しながら支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンス時などに、それまでの暮らしぶりや嗜好等をご家族様から情報収集する。その中から、ご家族様の思いを直接聞き、思いを受け止め共感することで信頼関係を築き、共に入居者様を支えていく関係性作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同敷地内の在宅サービスをご利用の友人との面会や逆デイ、近隣の理美容室の利用を続けることで、今までの人間関係が継続出来るようにしている。	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。 友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるよう配慮するとともに、利用者の行きつけの理・美容室の継続利用や以前住んでいた家を見に行ったり、家族等の協力を得ながら墓参りなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格や社交性を踏まえ、入居者同士の組み合わせや食卓の位置などを工夫し、関係作りに努めている。場合によっては、職員も間に入り会話が弾むように支援している。又、ユニット間での交流を持って頂くためにも、合同で歌のレクリエーションを行ったり、バイキングなどを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の身体状況で、グループホームでの生活が困難となり、家族の希望があった場合は、関連施設との連携をとり、入居相談、連絡調整等の援助をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者個々の思いや意向を把握したうえで一人ひとりに接している。日常の生活の場においても自己決定や選択の機会を増やし、意思表示が困難な入居者に対しても、表情、しぐさ等から、意向を汲み取るよう努めている。	管理者と職員は、入居時にアセスメントで利用者の生活歴を把握するとともに、利用者との日々の会話や家族等から話を聴いて希望や意向を把握している。 意思疎通が困難な利用者には、表情や仕草、家族等から話を聴いて管理者と職員で相談しながら把握している。 把握した内容は「個人記録」と職員が知り得た情報を記載する「連絡ノート」に記載し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、情報収集やアセスメントを行い、普段からの会話や日常の活動を意識的に行っている。又、ご家族からこれまでの暮らしぶりについて情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用したり、今までの暮らしの中での役割や一日の過ごし方を把握し、料理、洗濯物たたみ、畑仕事や手工芸等、生活を通しての活動を重視して取り組んでいる。本人の出来ること、出来ないことを見極めながら、本人のペースに合わせて、生きがいや意欲につながるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がどうしたいのか、どうありたいのか、ご本人の望む暮らし、思いを大切にしながら、ご本人や家族を交えて話し合いを実施している。又、その思いをアセスメントし、認知症に対する取り組みを交えて介護計画を作成している。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望のほか、医師や看護職員の意見等を取り入れて作成するとともに、随時モニタリングを行い、6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、家族等を交えてカンファレンスを行い、その都度現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録の他に、職員間での情報共有を目的として連絡ノートを活用している。連絡ノートには、気づいたことや提案等を記載し、それを元に話し合い、ケアの内容や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の在宅サービスから入居された方もおり、入居後も逆デイで遊びに行ったり、他部署の職員とも連携を図り、柔軟な対応ができています。又、ターミナルケアでは、ご家族の希望に応じて、宿泊や規定時間外の面会等にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議は民生委員の方にも毎回参加していただいている。自治会長にも参加を依頼しているが、仕事があり調整が難しいとのことで会議内容の報告、行事告知等で連携を図っている。地域行事への参加、近隣の商店や理美容室の活用を行い入居者の顔や症状の理解、施設の取り組みに理解いただけるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医が往診や臨時の受診、相談に対応してくれている。眼科、皮膚科等往診以外の対応は、緊急時を除き、家族と連携しながら、対応している。	契約時に利用者と家族等の希望するかかりつけ医への受診が可能なことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明している。 月1回協力医療機関の医師による訪問診療や週1回の訪問歯科診療、看護職員による健康管理を支援している。 受診結果は家族等に来訪時や電話で報告するとともに、「個人ファイル」と「連絡ノート」に記載し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が配置されており、日常の服薬管理や健康管理の業務の他にも、介護現場において、入居者、職員との関係作りに努めている。又、医療面で職員からの不安や疑問点に対して、伝達会等を実施しケアについての話し合いなどを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の意向を確認しながら、病院との連携を図っている。看護師と管理者は、病院の病状説明に家族とともに参加し、治療経過や、注意事項等の説明を聞き、受け入れ体制を整えている。グループホームで可能な治療であれば、一日でも早く退院できるよう病院にも働きかけている。又、往診の際にも情報の収集を行い、連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のカンファレンスの際に、重度化の場合や、終末期のグループホームでの看取りの指針について説明を行い、本人、家族の意向を確認している。又、定期的なカンファレンスの際にも話し合いを重ね、本人、家族との方針の共有に努めている。看護師や主治医と連携を図り、職員、家族、併設事業所、地域も含め、全体で関わられるよう支援している。	契約時に「重度化した場合における対応の指針」や「施設における看取り介護の指針」を利用者や家族等に説明し、段階に応じて同意を得ている。職員は以前の看取り支援後に作成した「看取りケア振り返り記録」や「家族の記録」をもとに毎日話し合っているほか、医師や看護職員、家族等と連携を図りながら支援にあたっている。事業所独自の「ターミナルケアマニュアル」や「看取りケア振り返り記録」、「家族の記録」などをもとに年2回は職員の研修を実施している。現在看取り介護に入った利用者があり、支援中である。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルをもとに、急変時や事故発生時に適切で迅速な対応が出来るようにしている。又、法人内の勉強会に参加し連絡方法の確認や急変時の対応について実践している。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練を実施している。消火栓や消火器の取り扱いについても、入居者も一緒に参加している。	避難訓練は消防署立ち会いのもと、隣接する通所介護事業所と小規模多機能型居宅介護事業所合同で年2回実施し、うち1回は夜間想定避難訓練を実施している。以前は近隣住民の参加も得ていたが、現在は仕事をもち留守宅が多いことから、参加を得るまでには至っていない。訓練後は反省点や今後の課題などを話し合い、記録に残している。災害に備えて水や缶詰、米、カップ麺、カセットコンロなどを備蓄しているが、一覧表を作成して数量や賞味期限を管理するまでには至っていない。	運営推進会議の委員に協力を呼びかけるなどで、避難訓練に地域住民の参加を得ることを期待する。備蓄品は数量や賞味期限などを記載した一覧表を作成し、管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時には、接遇や高齢者への対応を学ぶ機会を設けている。個人情報の取り扱いについても説明し、同意書を作成している。又、入職時以外にも法人内で個人情報等について研修を実施し、知識を深めている。	管理者と職員は利用者の呼び方や言葉遣いなどに気を配り、利用者が言われたくないことを言わないように意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて支援している。 職員はトイレ誘導時には利用者に小声で声をかけるほか、トイレのドアを閉めて外で待つなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。 契約書などの個人情報に関する書類は鍵のかかる倉庫に保管するほか、常時使用する「個人記録ファイル」は事務所の棚に保管し、事務所自体を施錠して情報漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式を活用したアセスメントの情報を把握した上で支援している。又、自己決定がしやすいように工夫し声掛けをしたり、2択にしたりすることにより自己決定しやすいように努めている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いを聞きだしながら、希望に添えるよう支援している。必ずしも、全員が同じことを行うわけではなく、午後等、趣味の裁縫や計算ドリルに取り組む入居者等、希望に沿って生活を送れる支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族からの情報も取り入れ、近隣の理美容室や移動美容室を利用し、本人の希望に合ったおしゃれができるよう支援している。パーマやカラーも楽しむことができている。毎日の衣服も、本人が準備できない入居者に対し、2つの中から選択する等の支援を行っている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、後片付けは、入居者の能力に応じ、分担して参加している。献立も食材を確認して、一緒に考えている。又、昼食にバイキングを行ったり、お弁当箱を使用する等、変化をつけ、食事を楽しむことができるよう支援している。	利用者と職員が食材を相談して配達業者に注文している。調理専門の職員がその日の献立を決め、利用者と職員と一緒に調理している。利用者はできる範囲で下準備や調理、テーブル拭き、配膳、後片付け、食器洗などの役割を担っている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、同じ食事を摂りながら会話しながら、食事をしている。誕生会には手作りケーキで祝うほか、外食やバイキング方式の食事を提供するなど、変化をつけて食事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の低下がみられる時には、チェック表を活用し、栄養摂取の管理を行っている。脱水の予防のため、水分摂取量のチェック表は毎日記入を行っている。本人やご家族とも相談しながら、嗜好品を取り入れたり、個々に合わせた食事形態にも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいの援助にて、自立している入居者に関しては、本人に任せ、声掛けにて行っている。個々の能力に応じて、準備、誘導、後片付けの支援を行っている。義歯の入居者は、夕食後、毎日、義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。又、歯磨きやうがいが難しいご利用者に関しては、口腔ウエットティッシュや口腔用のスポンジを使用し口腔ケアを行っている。必要に応じて、訪問歯科の対応も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、自立、誘導、失禁の有無等、排泄パターンを把握している。排泄アセスメントにより、失禁の回数を減らすよう支援できている。	排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。 おむつ対応の利用者も日中は紙パンツを使用して、紙パンツから布パンツに改善するなど、利用者一人ひとりに合った声かけをして排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カスピ海ヨーグルトを手作りし、毎朝、提供している。毎日の食事に食物繊維、乳製品を多く取り入れ、散歩や運動も合わせて、自然排便を促すことに努めている。自然排便がみられない際にも、看護師と相談しながら、オリーブオイルを飲用する等、薬を使用しない排便を目指している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間や曜日は設定せずに、基本的には本人の好きな時間に入れるように支援している。併設サービスの大浴場への入浴等も行っている。	風呂は毎日沸かし、週3回の入浴を基本としているが、利用者の状態や希望によっては入浴日や時間帯の変更のほか、シャワー浴や足浴など、個々に応じた入浴の支援をしている。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、「一緒に入りましょう」とさりげなく風呂場へ誘導して、無理なく入浴できるよう工夫している。 隣接の通所介護事業所の大きな浴槽での入浴や冬至には柚子湯にするなど、入浴が楽しみなものとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で過ごす時間やアコーディオンカーテンで仕切れる和室で休む時間も設け、共同生活におけるストレスに配慮している。夜、寝付けない際には、一緒に温かいお茶を飲み、お話を伺う等して安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用が理解できるように、看護師が薬剤に関する資料を作成。又、薬情を連絡ノート等と共に引き出しに入れ、いつでも目が通せるようにしている。新しい薬が処方されても、観察、状態の変化が報告できるようにこれらの資料も活用している。又、眠気強い等症状の変化はすぐに看護師に報告し、薬の見直しも常に意識しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、今やりたいことを尊重し、畑作業、料理、散歩、手工芸等、役割を持ち、やりがいを持って生活できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭やデッキに自由に出られるようになっている。又、併設サービス部署、散歩等、自宅の様子を見に行く等の要望にも対応するよう本人の希望に沿って支援している。又、ご家族の協力で外食へ出かけたり買い物に出かけたりされている。	天気の良い日には、利用者と職員で事業所周辺を散歩しているほか、利用者が気軽に日光浴や外気浴が出来るようテラスや中庭にテーブルや椅子を配置している。 年間の行事計画に、花見やドライブを兼ねた外食や買い物などの外出支援を組み込み、気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人内の他事業所にて一括管理されており、外出、買い物時には、その事業所へ事前に連絡し取りに行く。買い物や外出等で支払を一緒に行い、お金の触れる機会を提供している。日常的にも新聞広告を見ながら、野菜の価格を話題にする等、金銭感覚を失わないよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の返事は本人が出せるように、可能な限り支援をしている。家族からの電話には本人にもつなぎ、こちらから連絡する時にも支援をしながら本人がかけられる様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者のなじみにの物（実際に使用していた）家具や小物を配置している。また写真などを飾り、より入居者が落ち着く環境作りを心がけている。光の調整はすだれを活用。トイレの表示などで、入居者の目線に合わせることで、入居者が使いやすく混乱しないような環境に配慮している。	食堂は天窓からの採光やすだれを活用して光と温度を調節をしているほか、壁には利用者が制作した雛人形などの壁掛けを飾り、季節感を醸し出している。 居間の掃き出し窓はテラスに続いており、利用者が気軽に外気浴ができる環境となっている。 玄関には利用者の転倒防止のため長椅子を配置しており、食堂と居間はアコーディオンカーテンで間仕切りができ、独りになれたり、気の合った者同士で思い思いに過ごせる居場所づくりの工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間の間はアコーディオンカーテンで空間を仕切れるようにしている。食堂にも自分の座席以外にソファを置いている。中庭やデッキにもベンチを設置し、自由に居場所が選択出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前になじみの家具、使い慣れた物、写真やアルバム等を持参していただけるように説明、依頼している。家具の配置も、自宅に近づけることで安心して生活して頂けるよう支援している。又、必要に応じて家族も居室に宿泊できるようにになっている。	居室は和室と洋室があり、押し入れやエアコン、照明器具を備え付けている。 利用者は家族等と相談しながら使い慣れたベッドや布団、カーテン、座椅子、鏡台、テレビ、箆笥、時計、衣装ケース、洋服掛け、洋服、家族の写真など、思い思いの物品を持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーにするのではなく、玄関、ウッドデッキにも適度な段差を付けている。手すりの設置や滑り止め、目で見えてわかる段差のしつらえの工夫をしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業署名 グループホーム どんぐり荘

作成日 平成27年8月4日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練は消防署立会いの下、隣接する通所介護事業所と小規模多機能型居宅介護事業所と合同で年2回実施できているが、以前は参加して頂いていた近隣住民の方も、現在、昼間留守宅が多いため参加を得るまでに至っていない。又、災害に備えての備蓄物の用意はあるが、個数や賞味期限を管理するまでに至っていない。	避難訓練に地域住民の参加を得る事ができる。又、備蓄物については、数量や賞味期限を管理することができる。	防災委員で地域住民へ避難訓練の参加の呼びかけを行ったり、運営推進会議にて民生委員へ呼びかけを行う。又、備蓄物については全員が把握できるように一覧表を作成し、数量や賞味期限を記載して管理する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。